

## 農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 あらいじゆくえき 新井宿駅 ちいき と きょうぎかい 地域まちづくり協議会  
( 埼 玉 県 川 口 市 )

### 【 花とみどりとあたたかい人たちがいるまち 】

#### 1 むらづくりの動機と背景

神根地区は都市計画法上の市街化調整区域が多く、伝統産業である植木の産地であるため、東京近郊でありながら緑地帯も多く、歴史的な資源が豊富にあることが特徴である。

一方、重要な交通拠点でもあり、東北自動車道、東京外環自動車道、首都高速川口線が通っており、平成 13 年に埼玉高速鉄道の「新井宿駅」が開業してからは宅地化が進み、街並みは大きく変化した。

また、近年農家の高齢化や後継者不在によって耕作放棄地が増えるとともに、農地が資材置場等に転用され始めるなど、地域の環境が大きく変化していく中、古くから鋳物や植木の町として知られる地域でありながら、こうした文化や歴史がこのまま埋もれてしまっているのではないかとの問題意識が生まれた。

このような問題意識は農家に限らず地域に住む住民の共通認識になり、「都市型農業の魅力」と「確かな暮らし」を結ぶまちづくりをテーマに、立場を問わず志を同じくするメンバーが集まり活発な意見交換を重ね、「地域の魅力を発掘し、未来の地域のために役立てたい」との基本方針を掲げ、平成 23 年 3 月に「新井宿駅と地域まちづくり協議会」を設立した。

平成 27 年から協議会に、「都市農家部会」、「歴史部会」、「文化・工芸部会」、「プロジェクト部会」、「地域事業部会」を設置し、それぞれ活動を行っている。

#### 2 主な取組内容と成果

- 収穫祭・地域の文化的コミュニティの発表の場と位置付けている「イイナフェスタ」は協議会発足時から継続して開催し、地元かみね野菜などの販売（約 300 万円）を行っている。  
また、都市農家部会のメンバーは地元スーパーに地場野菜コーナーを設置し、地元野菜を供給することにより年間約 580 万円の売上があるとともに、収穫情報を SNS で毎日発信するなど積極的に地元野菜を PR している。
- 春キャベツ、じゃがいもなどの収穫体験（約 600 名参加）の開催、会員農家がオープンしたダリア園では、摘取体験や生け花教室も開催するなど地域住民との交流の場となっている。  
いずれも住宅の近隣に畑があり、近所で収穫体験ができる魅力的なイベントとなっている。  
地域の魅力発信の場として、古民家カフェの応援と協力を行っており、ランチの食材には会員の野菜などを提供している。
- 江戸中期より地域の特産品であった「赤山渋の復元プロジェクト」として赤山の柿渋を復元し、染物や工芸品の工作に加え、「地域の文化を伝える」と題して近隣の小学生に赤山渋染めの体験活動を行っている。  
和紙のハガキに「赤山渋」を塗る講習に参加した小学生は、渋柿染液の匂いに驚きの声をあげながらも面白いほど染まっていく様子に興味を持ち、和紙のハガキに楽しそうに絵を描くなど、体験を契機として地域の方々との繋がりが深まっている。
- 市内の食品加工業者・飲食店等と協同して、地域特産の生姜を使った神根生姜ウインナー等の 6 次産業化品（27 品）を開発し、イベントなどで販売しており、神根生姜ウインナーや地場産夏みかんなどの果物を使ったジャムは川口ハイウェイオアシス売店で人気商品となっている。  
学校給食では使用の難しいいちごについて、川口産 100%使用のいちごゼリーとして会員のいちご農家が開発し、市の給食メニューとしていちごゼリー（いちご 250 kg）や神根生姜ウインナー（1,125 kg）等を提供している。  
地元農産物を使った 6 次化産品は、今まで地元の原材料を使ったご当地産品が少なかった川口市において開発をリードしており、市内の食品加工業者や飲食業者の注目を集めている。

### 3 活動状況



協議会メンバー



ミニフェスタ出店地元の農産物が並ぶ



地元スーパーの地場産野菜コーナー



じゃがいも収穫体験（都市農家部）



赤山渋作り（文化工芸部）

